



# 営農情報

第34号 平成27年4月1日

## 「あまおう」4月の管理

南筑後普及指導センター

福岡大城農業協同組合

10a 当たり収量 5t以上を目指しましょう

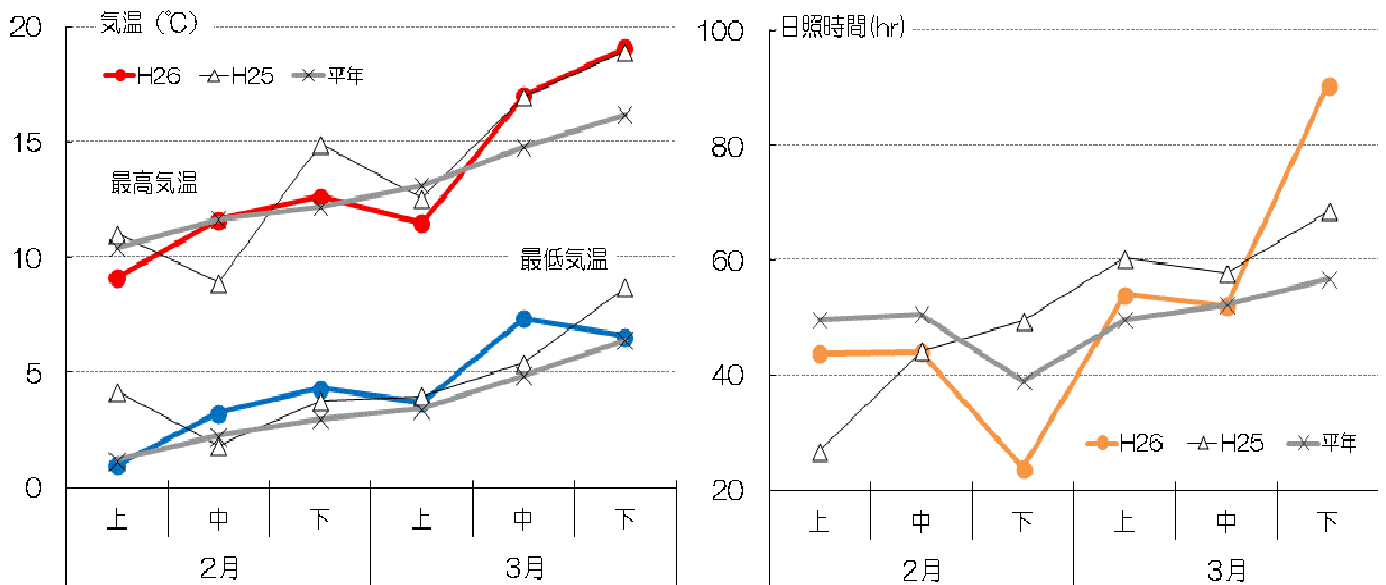
現在の生育状況は、早期作型で3番果房収穫中、普通作型で2番果房収穫中盤～3番果房収穫始めとなっています。4番果房については、早期作型で出蕾～着果、普通作型で早い株は出蕾が確認されるようになりました。3～4番の果房間葉数は4～5枚といった状況ですが、3番、4番果房ともに芽のバラツキが大きく、またほ場によるバラツキも見られます。

今年度は1～3番果房が連続して出蕾したため、着果負担が大きく株疲れを起こし心葉が小さくなっているほ場が見られましたが、気温の上昇とともに心葉が伸び始めています。

今後は気温が高く、日射しも強くなるため、過熟果・傷み果の発生が心配されます。従って、妻面の開放や遮光資材等の活用による降温対策を行って下さい。また、病害虫では、スリップス類、ハダニ類、アブラムシ類の発生が見られます。また、これからは特にうどんこ病の発生に注意が必要です。

親株は心葉が動き出しており、ランナーも発生し始める頃です。炭そ病の菌も活動し始めますので、定期的な防除を行って下さい。

< 最高・最低気温と日照時間(アメダス久留米より) >



# 本ほ管理

## 1 かん水管理

- ◇ かん水は少量多回数に努める。気温上昇とともに蒸散量が多くなるため、かん水量を徐々に増やし、水分が不足しないように注意する(目安はpFメーターで1.7~1.8)。
- ◇ 土壌が乾燥すると、玉離れが悪くなり収穫時の果実傷みの原因となるので十分にかん水する。
- ◇ 品質維持(日持ち・食味)のため、収穫前日のかん水は控え収穫直後のかん水を励行する。

## 2 温湿度管理

- ◇ 収穫後は早めに低温の場所に移し、温度の高い場所に長時間放置しない。
- ◇ 晴天日はサイド・谷・妻面の換気を早朝から行い、低温で管理する。  
(夜温が7℃以上の場合は、夜間も開放状態とする)

- ◇ 降雨時は、雨が降り込まないように注意してサイドや妻面換気を行い、湿度を下げる。
- ◇ 遮光資材(寒冷紗、塗布剤)を活用し、温度上昇を抑える。遮光が強すぎると黄種果の発生が助長されるため、ビニルへの塗布は1回目に薄めに行い、日差しが強くなった頃に追加塗布する方法が望ましい。

〈温度管理の目安〉

	温度
昼間	午前 18~20℃
	午後 18℃以下
夜間	5℃

## 3 果梗の除去と花だし・玉だし

- ◇ 傷果防止のため、収穫が終了した果梗は除去する。但し、無理にとると他の果実に傷が付くため、除去しにくい場合ははさみ等を使用する。
- ◇ 果実が葉の下に隠れると、黄種果や軟果の原因になる。果実に光が当たるように葉よけや摘葉を行い、花出し・玉出しを行う。また、黄化した下葉やランナーは随時除去する。

## 4 日焼け果・果実の煮え

- ◇ 雨が続きハウス内の湿度が高くなり、果実表面に水滴が付いたような状態の翌日に、快晴で温度が急に上昇した場合に発生しやすい。
- ◇ 谷換気により、直射日光が当たる谷から2列目の畝やハウス中央部にかけて発生が多い。
- ◇ 日焼け果は果実表面が白や銀色になり、果実の煮えは全体的に暗黒化する。
- ◇ 対策としては、曇雨天後の晴天に注意し、換気や遮光を行って果実温度の上昇を避ける。

(裏面につづく)

## 5 病虫害防除

### ◆スリップス類

2月からスリップス類の発生が見られます。今後は、ハウス外からの飛び込みも増加すると考えられるため、定期的に薬剤防除を行う(ミツバチを返却するまでは、IGR 剤を中心に使用する)。

### ◆ハダニ類

ハダニが発生している株は、強めの摘葉後、葉裏まで付着するよう丁寧に薬剤を散布する。多発している株は、株ごと除去する。

ハダニ類やスリップス類のハウス外からの侵入を防止するために、ハウス周辺の除草を行っておく。

### ◆アブラムシ類

年明けから発生が見られており、今後暖かくなると急増することが予想されるので、早めの防除に心がける。

### ◆うどんこ病

年内からうどんこ病が発生しているハウスが散見されており、今後も発生が増えることが予想される。発病を認めた場合には、罹病葉や病果を速やかにハウス外に持ち出し、葉裏まで付着するよう丁寧に薬剤散布する。多発している株は、株ごと除去する。

## 専用親株の管理

健全な苗を育成するためには、親株管理が最も重要です。「炭そ病」対策を十分に実施し、親株の順調な生育を促す栽培管理を行って下さい。

特に、早期作型分は充実した大きい苗を作ることが重要であるので、計画を立てて早め早めの準備を行って下さい。

### 1 「炭そ病」対策（「炭そ病」は、ランナーが活発に発生している時期に感染しやすい。）

- ◇ 「炭そ病」予防のため、ランナー発生前から7～10日に1回を目安として薬剤散布を行う。
- ◇ 病原菌は、古葉や果実を摘除した傷口から侵入しやすいので、降雨直前の作業は控え、摘除作業の後は、必ず薬剤散布を行う。
- ◇ 畝面に全面マルチを行い、土と遮断する。さしポットの場合は、切りワラを敷き詰める。
- ◇ 「炭そ病」の発生株を確認したら、発生株及びその周辺の株をほ場外に持ち出し廃棄する。



※26年産でうどんこ病が多発したほ場では、親株も感染している可能性が高いと思われるので、親株期からの防除を実施し、本ぼへの感染株の持ち込みを低減させることが重要である。

## 2 その他の管理

- ◇ ランナーの発生を促進するために、ランナー発生前に古葉を摘除する。
- ◇ プランター等で親株を育成する場合、IB化成を4月上旬までに10粒/株(1回目)、5月上旬までに5～10粒/株(2回目)を施用する。
- ◇ ランナー発生期の4～5月に乾燥すると、生育遅れやランナー数の減少を招き、採苗時期の遅れや採苗本数不足の原因となる。水分が不足しないように、かん水施設を準備しておく。
- ◇ 特にプランターは乾きやすいので、こまめにかん水を行う。
- ◇ 排水対策用の溝を、必ず整備する。
- ◇ マルチの隙間から出た親株周辺の雑草は、手作業で除草を行う。
- ◇ 棚式育苗の架台下の除草、排水対策を行う。

### 〈親株の選抜について〉

- 本田で、果形が異常な(長手、種がくぼんでいる等)株が見られた場合は、親株に果実をつけて形質を確認し、疑わしいものは連絡又は廃棄をお願いします。
- 果形の揃った収量の取れる‘あまおう’苗を育成するためにも、生育の悪い株を外すなど、親株の段階で優良株を選抜しましょう。

～「慣れ」と「油断」が事故を招きます～  
”安全”な農作業と農薬使用を徹底しましょう！